

研修報告書 No.12

研修先： 田野病院

私は今回、都内の病院から高知県の田野病院での地域臨床研修を行いました。田野病院は高知東部の地域医療を支える役割を果たしており、救急受け入れも可能な地域にとってなくてはならない施設です。本報告書では、研修内容に加えて高知の地域医療の現状、そして研修を通じて得たものについて述べます。

高知県は高齢化率が全国第 2 位と特に高齢化が進む県であり、若年人口の少なさが地域医療の維持に課題をもたらしています。医療職の確保の難しさが、地域医療の中で大きな問題として感じられました。さらに、県内でも医療機関や専門施設の偏在が顕著であり、都市部と地方部で医療資源に差があるのが現状です。しかしながら、田野病院のように小規模でも地域を支える病院では、多職種が密接に協力し合い、地域の医療・福祉の拠点として包括的な医療を提供する体制が整えられています。医師が中心となり、リハビリテーション、看護、ソーシャルワークといった他職種と顔を合わせて意見交換をする機会が多いことで、診療や退院後の生活整備の流れがスムーズになっていると感じました。

今回の研修では病棟業務に留まらず、訪問診療、乳幼児検診、デイケアでのリハビリテーション体験など多岐にわたる経験ができ、地域医療の現場に身を置く機会を得ました。また、院内ではリハビリテーションや退院支援カンファレンスといった多職種が集まる場へ参加し、医療チームの連携の深さを体感しました。東京の大病院では診療業務が細分化され、医師としても専門職に任せる場面が多く、こうした一体感のある医療連携を肌で感じる機会は限られています。そのため、今回の研修で見た多職種連携の現場は今後の診療連携のイメージを膨らませるのに大きな助けになると感じました。さらに、地域の高齢者ケアの重要性を理解する上でも、今回の研修は大いに役立ちました。例えば、訪問診療や短時間通所リハビリテーションでは、在宅で療養する高齢者が抱える課題に直面し、医療が地域社会と一体となって進められるべきであると再認識しました。

今回の研修における最大の収穫は、地域医療における連携の重要性を改めて理解できたことです。田野病院では医師を含む多職種が連携し、高齢者の退院後の支援や在宅医療を積極的に行っています。また、地域の訪問リハビリやデイサービスなどでの体験を通じ、医療が病院を出て地域全体で展開されるものだと強く感じました。また、クレーンを使った体位交換や入浴設備の工夫など、高齢者ケアにおける機器の進化を目の当たりにし、患者さんの負担軽減と安全確保に尽力する姿勢に感銘を受けました。これらは医師としての視野を広げるきっかけとなるのではないかと考えております。高齢化や医療資源の不足といった問題に対して医療連携や業務の効率化といった手段で立ち向かい、そういった現場を普段地域の実情を知ることのない研修医が実際に体験するというプロセスは今後の日本の医療を

支える医師を育成する上で大切であったと強く感じています。

今回の田野病院での地域臨床研修は、私にとって大変有意義なものでした。東京の病院で経験してきた研修とは異なり、地域医療の現場で多職種と密に協力することで、診療が患者さんや地域社会とどのように連動するかを学ぶことができました。また、高知の地域医療における人材不足や医療機関の偏在という課題にも目を向けることで、地域医療の現状に対する理解が深まりました。この研修で得た経験や学びを、今後の医師人生に活かしていきたいと思います。最後に、この場を借りて研修を受け入れてくださった田野病院の皆様へ心より感謝申し上げます。